

田中康夫「大連立は困難」

大連立と民主党の次期代表選びがからんで政局は混沌。国民新党と院内会派を組む新党日本の田中康夫氏が10日、政局を語った。「私は個人タクシードから」と言いつつ、その鋭い感覚と選挙上手には定評がある。

「大連立の実現はむずかしい。マスコミが大連立という言葉にくいついていただけだ」
各党の様子は。

「民主党内にも強い反対がある。政党政治の否定だからだ。自民党では中堅・若手に抵抗が大きい。自民はいま落選者が多い。選挙区調整はどうなるのだとの不安だ」
他の党は。

「公明は民自公の連立になったら存在価値がない。民公あるいは自公ならキャスティングボートを握れるが、みんなの党、社民、共産は『野合だ』と批判している。国民新党の

下地幹事長も『大連立はしからん』
だ」
仙谷氏が動いた

「各党幹部と会った。たちあがれの園田幹事長も『誘われた』とアナウンスした。なぜ仙谷が表立って動くのか。水面下でやるべきことをやっていたら別だが。それがなければ、仙谷は早く、派手に動きすぎだ。必ずリバウンドが出る」



4230

民党の西田昌司議員が参院予算委員で指摘した。野田は連舫とともに脱税で逮捕された元暴力団の構成員から390万円のパーティー券を買ってもらっていた。もう1つは。

「野田に対して民主党内から『財

後継首相に仙谷氏の意中は野田財務相のようだ。
「仙谷はフィクサー気取りで第2の小沢だ。みこしは軽くてパーがい

い、と野田を担ごうとしている。しかし、野田には2つの問題がある」
それは何か。
「1つは不信任案否決の翌日、自

務省の組織内候補」との声が出た。震災をチャンスと見て財務省は増税を考えている。野田はその期待の星だ。民主代表選は増税を防ぐか、是認するか、が焦点となる」
増税反対の理由は。

「まず、古今東西、増税で景気浮揚した国はない。それに手段がいくらかもある」
例えば。
「銀行に10年間動いていない休眠口座があり、年間1000億円が銀行の不労所得になっている。さらに日銀直接引き受けの国債を発行する。また、老人が持っている350兆円を無利子復興国債や無利子贈与で活用する」
(政治評論家)

次の焦点「増税の是非だ」